

(別紙1)

原子力規制人材育成事業 審査評価委員会
構成員名簿

○：委員長

	更田 豊志	原子力規制委員会委員長
	田中 知	原子力規制委員会委員
	山中 伸介	原子力規制委員会委員
○	伴 信彦	原子力規制委員会委員
	石渡 明	原子力規制委員会委員
	金城 慎司	原子力規制庁長官官房人事課長
	伊藤 隆行	原子力規制庁長官官房参事官（会計担当）
	遠山 眞	原子力規制庁技術基盤グループ技術基盤課長
	小野 祐二	原子力規制庁放射線防護グループ放射線防護企画課長
	森下 泰	原子力規制庁原子力規制部原子力規制企画課長
	大向 繁勝	原子力安全人材育成センター副所長
	本間 俊充	原子力規制庁放射線防護グループ放射線防護企画課 放射線防護技術調整官
	田中 桜	原子力規制庁放射線防護グループ放射線防護企画課 企画官

(敬称略)

(別紙2)

<採択案件一覧(1件)>

実施機関名	事業名
国立大学法人東京大学	我が国固有の特徴を踏まえた原子力リスクマネジメントの知識基盤構築のための教育プログラム

<条件付き採択案件一覧(3件)>

実施機関名	事業名	採択の条件
学校法人 五島育英会 東京都市大学	地震・津波・火山の継続的人材育成を目指した体験重視プログラム	教育対象を精査し、学部学生の教育を主体とする事業とすること。 原子力規制人材の育成に具体的な効果が上がるように、教材作成に係る委託内容を精査すること。
国立大学法人 筑波大学	人間力をコアとしたリスク・レジリエンス学に基づく原子力規制人材の育成プログラム	原子力規制人材の育成に具体的な効果が上がるように、規制教育の要素をさらに加えた事業とすること。 大学院主体の事業ではなく、学部学生の教育を主体とする事業とすること。 人文社会科学分野の講座、実施体制を充実させた多様性のある事業とすること。 設備備品費の必要性を精査すること。
国立大学法人 大阪大学	社会との共創による原子力規制人材育成プログラム	学内において着実に原子力規制人材を育成できるように、研修フォローアップのための講義群を充実させること。 教育の成果を把握するための指標を明確にすること。 特任助教を追加で雇用する必要性を精査すること。

<応募案件一覧（8件、申請受付順）>

実施機関名	事業名
産業医科大学	リスクミ及び産業保健を含めた放射線・原子力災害教育プログラムの構築
学校法人五島育英会 東京都市大学	地震・津波・火山の継続的人材育成を目指した体験重視プログラム
国立大学法人東京大学	我が国固有の特徴を踏まえた原子力リスクマネジメントの知識基盤構築のための教育プログラム
国立大学東京大学 アイソトープ総合センター	科学的知見に基づく政策提言、特に原子力災害対策における Decision Making を行う人材育成プログラム
国立大学法人筑波大学	人間力をコアとしたリスク・レジリエンス学に基づく原子力規制人材の育成プログラム
国立大学法人大阪大学	社会との共創による原子力規制人材育成プログラム
国立大学弘前大学	復興支援活動で得られた知的資源に基づく異分野融合型原子力安全人材育成
一般社団法人 日本放射線看護学会	地域住民と向き合う「原子力災害派遣保健チーム (NuHAT)」の構築

<機関名>

国立大学法人東京大学

<事業代表者>

国立大学法人東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 准教授 糸井 達哉

<事業名>

我が国固有の特徴を踏まえた原子力リスクマネジメントの知識基盤構築のための教育プログラム

<事業のポイント>

- ✓ 原子力規制人材育成事業で平成28年度から令和元年度にかけて実施した「国際標準プロアクティブエキスパート育成」の成果（社会科学を含む多様な分野の連携、社会の実情を理解・把握できる人材、規制の作成・改善を勧められる人材が必要との課題認識）、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）との連携講座等を基盤として、原子力のみならず、様々な工学システム・立地地域特有の特徴等を踏まえつつ、地域全体のリスク低減を図るための効果的な安全規制の仕組みを包括的に議論し、意思決定を行うことができる専門家を育成する。
- ✓ 具体的には、社会科学を含めた分野横断の講義、外部専門家による特別講義、リスク情報を活用した意思決定等に関する講習のほか、外部機関への学生派遣等を行う。
- ✓ 本事業による教育プログラムを正規カリキュラムに組み入れる。

<令和2年度実施予定事業のポイント>

- ✓ 工学システムの自然災害リスクマネジメントに関わる理学・工学・社会科学の分野横断の大学院講義
- ✓ 外的事象起因の原子力安全・防災等に関する IAEA 等の国際機関や国内外の大学、公的研究機関等からの専門家の講師招聘による特別講義
- ✓ 原子力関連施設の外的事象に関する安全性に関わる視察と議論
- ✓ ワークショップ等の開催による関係者との議論

<機関名>

学校法人五島育英会東京都市大学

<事業代表者>

学校法人五島育英会東京都市大学理工学部原子力安全工学科 教授 大島 靖樹

<事業名>

地震・津波・火山の継続的人材育成を目指した体験重視プログラム

<事業のポイント>

- ✓ 大学生・大学院生を主な対象として、想定外の自然外部事象（地震・津波・火山）に対しても判断ができる原子力安全エキスパートの継続的な人材育成を目指した体験重視型教育プログラムを構築する。
- ✓ 中高生への出前授業を行い、現場を持たない社会人等を対象としたリカレント教育を行うことにより、原子力規制人材の育成に寄与する。
- ✓ 具体的には、原子力発電所や火山の見学、地震・津波に関するリスクマネジメント、地震応答解析、AI の適用に関する講義、振動実験のための廉価な実験装置の作成等を行う。
- ✓ 原子力規制庁職員には講師及び履修者として積極的な事業への関与を求める。
- ✓ 補助期間終了後には大学院の単科履修科目として有料で実施する。

<令和2年度実施予定事業のポイント>

- ✓ 実際の火山痕跡等の踏査・調査
- ✓ 社会人・大学院生を対象とした地震応答解析習得コースの来年度以降の本格実施を目指した試行
- ✓ 大学院性・学部生を対象とした人工知能（AI、ディープラーニング）習得コースの来年度以降の本格実施を目指した試行
- ✓ 廉価な実験装置・実験方法の開発・製作・実施の来年度以降の学内実験科目への適用を目指した試行
- ✓ 火山の踏査・分析の来年度以降の本格実施を目指した試行
- ✓ 地震応答解析・AI 演習の来年度以降の本格実施を目指した試行

<機関名>

国立大学法人筑波大学

<事業代表者>

国立大学法人筑波大学理工情報生命学術院システム情報工学研究群長 遠藤 靖典

<事業名>

人間力をコアとしたリスク・レジリエンス学に基づく原子力規制人材の育成プログラム

<事業のポイント>

- ✓ 地震・津波等による複合的な災害の分析・評価と復興を実現するための学際的な学問体系である「リスク・レジリエンス学」の実施のため構築した連携大学院方式、産学連携のための協働大学院方式（大学、国内外の企業・研究機関によるコンソーシアムが実質的学位プログラムを運営）による教育研究システムをベースとして、大学院生を対象として原子力規制人材の育成を行う。
- ✓ プログラムは、コア科目、俯瞰力養成科目、専門科目（原子力、地震津波、リスクコミュニケーション、防災減災等）により構成し、達成度ポイント（定量）と学生の自己評価（定性）により達成度評価を行う。
- ✓ 必要な単位を取得し、学位論文の審査及び最終試験に合格することで教育課程修了とする。
- ✓ 原子力規制庁職員は原子力安全特別講義の講師を担う。

<令和2年度実施予定事業のポイント>

- ✓ 運営委員会・実施委員会の立ち上げ、関係機関との連携教育内容や協力体制についての確認、教職員の採用準備、規則整備、設備の整備
- ✓ 授業計画の策定、シラバス作成、インターンシップ実施機関との調整、学生の原子力発電所視察（例：福島、柏崎刈羽）の日程調整、非常勤講師の選考・調整
- ✓ Webサイトの立ち上げ、パンフレット作成、説明会の検討・実施、公開講義実施準備

<機関名>

国立大学法人大阪大学

<事業代表者>

国立大学法人大阪大学大学院理学研究科放射線科学基盤機構長 小川 哲生

<事業名>

社会との共創による原子力規制人材育成プログラム

<事業のポイント>

- ✓ 大阪大学における学部から大学院まで一貫した高度教養教育の枠組み、既存の教育プログラムを活用して、原子力分野の課題解決に活躍できる原子力規制人材を育成するための持続的な仕組みと人の流れを作る。
- ✓ 飯館村の協力を得て 2015 年から実施している「環境放射線研修会」を原子力規制の必要性和重要性に関する能動的な気付きを与える場として位置づけるとともに、倫理的・法的・社会的課題（ELSI）への対応や規制科学へのアプローチを含む原子力規制人材育成に資する講義を系統化し、原子力規制庁からの講師派遣による講義も組み入れてカリキュラムを編成する。
- ✓ 小・中・高校生向けの既存の教育プログラムも活用して原子力及び放射線への興味を涵養する。
- ✓ 文部科学省の「卓越大学院プログラム」採択事業等との連携も行う。

<令和2年度実施予定事業のポイント>

- ✓ 「環境放射線研修会」の成果発表会を年1回ずつ開催。遠隔授業システムを導入整備することで、大阪大学と福島県をスムーズに結び、どこからでも発表会に参加できるようにする。
- ✓ 既存の授業や各種プログラムを有機的に繋げて再編成し、フォローアップコースとして整備する。履修可能なものから順次履修しやすいように構成する。